

連載コラム

～ コーチングコミュニケーションが人を育てる ～ <第29回>

ユッキーのオランダ日記②「みとめる」

みなさま、こんにちはヽ(*´▽`)ノ

さわやかな季節、いかがお過ごしでしょうか。

ドリームフィールド事務所近くにある定禅寺通りのケヤキ並木も日に日に緑が濃くなってきました。

自然も人も、成長や変化を見ることができるこの季節が私は大好きです！

さて、今回はオランダの先生はなぜ怒らないの？という話をしましたが、

今回はその続き。「みとめる」についてのお話です。

オランダで最も優秀な学校として表彰された小学校で、

40年間校長を勤めていらっしゃるリーン先生のワークショップの時に、

一緒に日本から参加している受講者(小学校の先生)がリーン先生にこんな質問をしました。

「ほめるって、いいことなのでしょうか。ほめるコツってなんですか？」と。

すると、リーン校長は「校長の仕事は子どもをほめるのが仕事です。

祝福する気持ちを大切に、どんな小さな成功もほめます。

例えば、『うまいってるよ！』『あなたのおかげで良くなったんだよ！』

と、親指を立てながら笑顔でいうのです」といって、人懐っこい笑顔で、親指を立てました。

「しかし、気をつけなければいけないこともある」ともおっしゃいました。

① ほめるときはすぐに(早く、正しく)

② 結果をほめるのは意味がない。過程、プロセス(途中経過)をほめる。

③ うまいった時には必ず、「どんな風にやったの?」「どうしてうまいったの?」と理由を訊く。

すると子供は結果を振り返ることができ、次に活かせる。

これらがリーン先生の「ほめるときのモットー」だそうです。

リーン先生のおっしゃることは、ほめるというより、コーチングでいう

「みとめる(アクノレヅメント)」そのもの。

なぜなら、みとめるという行為は、「私はあなたのことをいつも気にしているよ、

ちゃんと見ているからね」、ということを出して伝えることだからです。

『相手のいいところをみて、心にとめる』。これが、日本のみとめるの語源だそうですよ。

結果をほめることは簡単で誰にでもできますが、結果を出すまでが結構しんどいものです。だからこそ途中経過も「がんばっているね」と伝え、それが励みになり、やがて結果に結びついていくのです。

「どうしてうまくいったの？」も、コーチングの質問の使い方そのもの！

リーン先生の話を通じて、オランダの教育にはコーチングがしっかり根付いていることを確信しました。

ほめることも、質問も、子供たちのことを常にしっかり見ているからできることです。

オランダの先生たちは子どもたちをいつも観察しているのです。

頭が下がるほど素晴らしい！

次回、お話す予定の「マルチプルインテリジェンス」にもつながりますが、

この子のいいところはどんなところかな、という視点を持って関わっていました。

そういう目こそが、子どもの幸福感をそだてるんだなあ、とつくづく感じました。

次回の「ユッキーのオランダ日記」楽しみに！

プロフィール

阿部 侑生（あべ ゆき）

ドリームフィールド代表。

文部科学省認可（財）生涯学習開発財団認定プロフェッショナルコーチ。

フリーアナウンサーとしてミヤギテレビ「OH! バンデス」(95~04)等、レギュラー出演、その後、ビジネスコーチとして独立。

「コミュニケーションスキルの向上」「自発的な部下の育成」

「子どものやる気を引き出すコーチング」「人生を変えるスマイルパワーについて」等をテーマにしたコーチング研修、コミュニケーション研修講師として活動中。

経営者、起業家へのパーソナルコーチングも行っている。